



2024年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月12日

上場会社名 株式会社ドール・日レスホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3087 URL <https://www.dnh.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星野 正則

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 天間 靖之

TEL 03-5459-9178

四半期報告書提出予定日 2024年1月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	106,234	12.5	5,762	181.7	6,063	143.3	4,972	68.2
2023年2月期第3四半期	94,459	15.3	2,045		2,492		2,955	18.7

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 5,021百万円 (71.0%) 2023年2月期第3四半期 2,936百万円 (18.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	112.95	
2023年2月期第3四半期	66.84	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第3四半期	127,213	98,868	77.5
2023年2月期	121,036	96,293	79.3

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 98,561百万円 2023年2月期 96,014百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		14.00		16.00	30.00
2024年2月期		20.00			
2024年2月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	138,718	9.3	7,282	145.3	7,445	114.8	5,399	57.5	122.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期3Q	45,609,761 株	2023年2月期	45,609,761 株
期末自己株式数	2024年2月期3Q	1,791,447 株	2023年2月期	1,390,623 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期3Q	44,022,561 株	2023年2月期3Q	44,218,207 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信[添付資料]3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2023年3月1日～2023年11月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルスによる営業規制の撤廃や5類への移行もあり、人流が活発化することで経済の正常化が進み、インバウンドの恩恵も受け、消費動向は改善してまいりました。また、ウクライナ問題をはじめとした国際的なさまざまな要因から生じたエネルギーや穀物をはじめとしたコモディティの価格高騰や円安の進行も落ち着きが見られるようになりました。しかしながら、生活に直結する食品などを中心に、消費者物価の上昇は継続しており、消費者の値上げ疲れも生じつつあり、先行きの不透明感に変化はありません。

外食業界におきましても、新型コロナウイルスの影響は収まったものの、在宅勤務の継続など、コロナ前の生活習慣がもとに戻ることはなく、完全な回復と言えるまでの状況には至っておりません。また、原材料をはじめ人件費や物流費など、さまざまなコストの上昇は継続しており、今後もコストの上昇が見込まれるなど、厳しい経営環境が継続しており、予断を許さない状況となっております。

このような状況のもとで、当社グループは、「外食業界におけるエクセレント・リーディングカンパニー」の地位確立を目指し、立地を厳選してグループ全体で56店舗（直営店35店舗、加盟店19店舗、海外2店舗）を新規出店しました。

既存事業においては、各業態別での新商品の導入やリニューアルをはじめ、テイクアウトメニューや売店商品の拡充、卸売事業の拡大など、コロナ禍に取り組んだ活動を継続するとともに、キャッシュレス・キャンペーンをはじめ、さまざまなキャンペーンを実施し、販促活動を強化いたしました。また、季節ごとの商品を中心に、付加価値の高いメニューを随時導入することで顧客単価を上げ、売上の回復に努めました。

その結果、経常利益においては、コロナ前の経営数値への改善には至っていないものの、売上高は、顧客単価の上昇に伴い改善傾向が明確化し、コロナ前を超える水準にまで回復しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高1,062億34百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益57億62百万円（前年同期比181.7%増）、経常利益60億63百万円（前年同期比143.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益49億72百万円（前年同期比68.2%増）となりました。

各事業区分の概況は次のとおりであります。

（日本レストランシステムグループ）

日本レストランシステムグループでは、新型コロナウイルスの5類移行に伴い着実に売上高が伸長し、回復傾向が顕著に見られるようになりました。

新規出店につきましては、「星乃珈琲店」や「洋麺屋五右衛門」等の主力ブランドを中心に22店舗を新規出店するなど店舗網の拡大に努め、一部のロードサイドの「星乃珈琲店」においては、既存建物の一部分を改装し「コッペ田島」ブランドをオープンした結果、より多くのお客様をお迎えすることが出来ております。また、業態変更も積極的に進め「牛たん焼き仙台辺見」「蕎麦いまる」等の既存ブランドで新たにスタートしております。なお、「星乃珈琲店」の店舗数は、2023年11月末時点で国内においては275店舗となり、うち加盟店は35店舗となりました。

商品戦略につきましては、引き続き、季節に合わせたメニュー開発のマーケティング力強化に努め、商品力を高めることでお客様にご満足頂ける商品を提供しております。また、多ブランド展開における効率化を考慮した商品開発を実施することで、徹底した原価管理を行っております。

以上の結果、日本レストランシステムグループにおける売上高は373億11百万円（前年同期比13.3%増）、セグメント利益は20億2百万円（前年同期比302.3%増）となりました。

(ドトールコーヒーグループ)

ドトールコーヒーグループの小売事業及びフランチャイズ事業では、新型コロナウイルスの5類移行により、人流が回復したことで、ビジネス街や駅前立地を中心に売上高は上昇傾向が鮮明となりました。回復が遅れがちであったモーニングの時間帯も客数が回復しつつあり、ランチやティータイムの改善も継続していることが、業績の回復に繋がっております。

店舗においては、コロナ禍に対応したテイクアウト施策や売店商品の拡大を継続しながら、季節ごとの商品など付加価値の高いメニューを随時導入し、顧客単価を上げることで売上の回復に努めました。また、4種類のポイントプログラムを導入し、客数の回復を目指したキャッシュレス・キャンペーン施策を継続して打つことにより、新規顧客の獲得やリピーターの確保に努めております。また、原材料や人件費、物流費などをはじめとしたコストアップに対し、昨年来取り組んでいる維持管理コストの削減を継続実施することで、コスト全体の上昇は最小限に抑えております。

卸売事業においては、コンビニやスーパー向けチルド飲料において、プライベートブランド・ナショナルブランドともに、商品展開の幅を広げることで、売上高の拡大に努めました。また、ドリップコーヒーやインスタントコーヒーなど、通信販売や量販店での販売を拡大、新たな商品の開発・販売を展開することで販売強化に努め、引き続き業容拡大に邁進しました。

現状、利益面においては、コロナ前の業績に届いてはいないものの、売上高はコロナ前を超え、確実に伸長しており、今後、客数増加に対するさまざまな施策を講じることで、更なる回復を図ってまいります。

以上の結果、ドトールコーヒーグループにおける売上高は637億85百万円（前年同期比12.4%増）、セグメント利益は30億14百万円（前年同期比256.1%増）となりました。

(その他)

その他セグメントにおいては、主に国内及び海外における外食事業に係る小売及び卸売に関する事業となります。売上高は51億37百万円（前年同期比7.3%増）、セグメント利益は7億18百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金の増加や受取手形及び売掛金の増加等により1,272億13百万円と前連結会計年度末と比べ61億76百万円の増加となりました。負債は、支払手形及び買掛金の増加等により283億45百万円と前連結会計年度末と比べ36億1百万円の増加となりました。純資産は、剰余金の増加等により988億68百万円となり前連結会計年度末と比べ25億74百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今期の見通しにつきましては、2023年4月14日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,222	33,848
受取手形及び売掛金	6,032	7,413
商品及び製品	3,232	3,522
仕掛品	153	195
原材料及び貯蔵品	1,806	1,737
その他	6,298	7,173
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	49,732	53,874
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,972	21,652
機械装置及び運搬具（純額）	961	1,102
土地	20,882	21,021
リース資産（純額）	2,514	3,173
その他（純額）	1,437	1,803
有形固定資産合計	46,768	48,753
無形固定資産	761	1,068
投資その他の資産		
投資有価証券	803	816
繰延税金資産	1,290	1,368
敷金及び保証金	20,212	19,918
退職給付に係る資産	28	28
その他	1,440	1,384
投資その他の資産合計	23,775	23,516
固定資産合計	71,304	73,338
資産合計	121,036	127,213

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,346	7,377
短期借入金	470	470
1年内返済予定の長期借入金	60	93
未払法人税等	696	1,225
賞与引当金	1,156	692
役員賞与引当金	51	52
株主優待引当金	141	—
その他	7,883	9,699
流動負債合計	16,806	19,610
固定負債		
長期借入金	155	162
リース債務	1,023	1,614
退職給付に係る負債	2,266	2,291
資産除去債務	2,279	2,328
その他	2,212	2,336
固定負債合計	7,937	8,734
負債合計	24,743	28,345
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	16,638	16,642
利益剰余金	80,983	84,372
自己株式	△2,571	△3,431
株主資本合計	96,051	98,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	154	191
繰延ヘッジ損益	154	315
為替換算調整勘定	△338	△531
退職給付に係る調整累計額	△7	2
その他の包括利益累計額合計	△37	△22
非支配株主持分	278	306
純資産合計	96,293	98,868
負債純資産合計	121,036	127,213

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
売上高	94,459	106,234
売上原価	39,089	43,169
売上総利益	55,370	63,064
販売費及び一般管理費	53,324	57,301
営業利益	2,045	5,762
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	8	12
不動産賃貸料	59	75
為替差益	373	219
その他	64	57
営業外収益合計	516	374
営業外費用		
支払利息	9	12
不動産賃貸費用	35	39
持分法による投資損失	6	15
その他	17	5
営業外費用合計	69	73
経常利益	2,492	6,063
特別利益		
投資有価証券売却益	—	45
固定資産売却益	6	8
退店補償金収入	291	540
助成金収入	1,373	—
特別利益合計	1,671	593
特別損失		
固定資産除却損	21	20
減損損失	212	158
特別損失合計	233	179
税金等調整前四半期純利益	3,930	6,478
法人税等	951	1,472
四半期純利益	2,978	5,006
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	34
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,955	4,972

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益	2,978	5,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	37
繰延ヘッジ損益	215	160
為替換算調整勘定	△297	△193
退職給付に係る調整額	24	9
その他の包括利益合計	△41	14
四半期包括利益	2,936	5,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,913	4,987
非支配株主に係る四半期包括利益	23	34

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社を持株会社とする当社グループは、2つの中核事業会社を基礎としたセグメントから構成されており、「日本レストランシステムグループ」、「ドトールコーヒークーグループ」、「その他」を事業セグメントとしております。

「日本レストランシステムグループ」は、主に直営店におけるレストランチェーンを運営しており、食材の仕入、製造及び販売までを事業活動としております。

「ドトールコーヒークーグループ」は、主に直営店及びフランチャイズシステムによるコーヒーチェーンの運営をしており、コーヒー豆の仕入、焙煎加工、直営店舗における販売、フランチャイズ店舗への卸売りやロイヤリティ等の収入、また、コンビニエンスストア等へのコーヒー製品の販売を事業活動として展開しております。

「その他」は、主に国内及び海外における外食事業に係る小売及び卸売に関する事業活動としております。

II 前第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	日本レストランシステムグループ	ドトールコーヒークーグループ	その他	計		
売上高						
小売	32,643	21,511	3,744	57,900	-	57,900
卸売	235	33,439	1,042	34,716	-	34,716
その他	57	1,784	-	1,842	-	1,842
顧客との契約から生じる収益	32,936	56,735	4,787	94,459	-	94,459
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	32,936	56,735	4,787	94,459	-	94,459
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,062	405	3,133	4,602	△4,602	-
計	33,999	57,140	7,920	99,061	△4,602	94,459
セグメント利益	497	846	630	1,974	71	2,045

(注) 1. セグメント利益の調整額71百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用508百万円及びセグメント間取引消去579百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒークーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で147百万円、「ドトールコーヒークーグループ」で64百万円、「その他」で1百万円であります。

Ⅲ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	日本レストラン システムグループ	ドトールコーヒー グループ	その他	計		
売上高						
小売	36,995	26,590	3,951	67,536	-	67,536
卸売	259	35,433	1,185	36,878	-	36,878
その他	56	1,761	-	1,818	-	1,818
顧客との契約から生じ る収益	37,311	63,785	5,137	106,234	-	106,234
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	37,311	63,785	5,137	106,234	-	106,234
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,240	475	3,481	5,198	△5,198	-
計	38,552	64,261	8,618	111,432	△5,198	106,234
セグメント利益	2,002	3,014	718	5,736	26	5,762

(注) 1. セグメント利益の調整額26百万円には、主として親会社の管理部門に係わる費用等である配賦不能営業費用544百万円及びセグメント間取引消去571百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本レストランシステムグループ」及び「ドトールコーヒーグループ」セグメントにおいて、処分を予定している事業資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は「日本レストランシステムグループ」で45百万円、「ドトールコーヒーグループ」で104百万円、「その他」で8百万円であります。